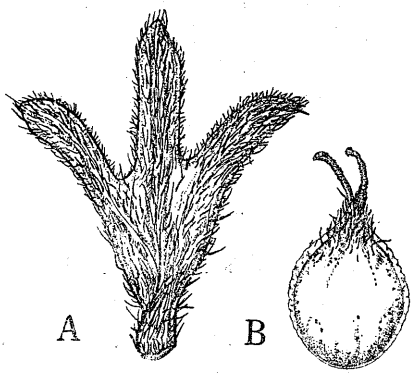
○ チチブミネバリの果穂（原　寛）Hiroshi HARA: Strobils of *Betula chichibuensis* Hara

本誌 **31**: 122 (1956) でチチブミネバリを記載した時には雌花穂は全く不明であつた。その後桧山庫三氏の御好意によつて，同氏が武甲山で採集した雌花穂をつけた標本を分けて戴いた。私も昨秋 11 月 3 日武甲山で成熟した果穂をつけた材料を採集することができたのでここに記載を補つておきたい。果穂は比較的貧弱で円筒状，果鱗は 3 深裂し，小堅果はほとんど翼がなく，日本産近似種の中ではオノオレに最も近い。しかしオノオレとも各部に腺点がなく，果鱗には外面に絹毛が密生し，側裂片は狭長であるなどではつきり異つている。種子もよく稔つていたし，やはり独立種と認めてよいようである。



Betula chichibuensis Hara
A. Fruiting bract ×8. B. Seed ×8.

Betula chichibuensis Hara in Journ. Jap. Bot. **31**: 122, f. 1 (1956).

(Descrip. add.) Amenta fructifera cylindrica breviter pedunculata erecta 1.5–2.5 cm longa 7–10 mm crassa, pedunculi dense sericeo-pubescentes. Bracteae 3.5–5 mm longae extus sericeo-pubescentes eglandulosae alte 3-trifidae; lobis lateralibus angustis obtusis 1.5–2.5 mm longis erecto-patentibus mediano paullo brevioribus. Nuculae ovatae castaneae 2–3 mm longae angustissime marginatae vix alatae ad apicem strigoso-pilosae.

Specim. Mt. Bukō, Chichibu, ca. 1000 m (H. Hara, Nov. 3, 1956 in TI); ibid. (Hiyama, Jun. 2, 1949 in TI).

○ ツルニンジンの一変種（大村敏朗・小山鉄夫）Toshirō ŌMURA and Tetsuo KOYAMA: A new variety of *Codonopsis lanceolata* from Tôtômi, central Japan

茲に記載するツルニンジンの一品は，静岡県渋川温泉で見出されたもので，典型的なツルニンジンとは葉の裏に相当密に伏毛のあることでかなり相違し，更に葉の幅は一般に遙に狭く，又花冠も写真に見る様に幾分長い。本品は始め昨年 5 月筆者等が幼植物を採集した際，その容姿がツルニンジンともバアソブとも異るので特に注意し，小山は生品を持ち帰つて栽植する一方，大村は昨年初秋再度渋川を訪ね豊富な標品を得，更に熟果をも入手した。葉裏の毛は葉が老成しても脱落しないが，種子はツルニンジンのそれと大同小異であるし，根もバアソブの様に塊状とならないから変種とするのが妥当と